小学校　自閉症･情緒障害特別支援学級　自立活動　学習指導案

1　題材名　みんなでチャレンジ

2　題材について

（1）　教材観

本題材は，今までに学習してできるようになったものを整理し，「チャレンジすごろく」にし，みんなでチャレンジすることを主な内容としている。「すごろく」にすることで①順番を待つこと，②ルールを遵守すること，③相手に自分の気持ちを伝えることは本学級の児童が学ぶのに適切だと考える。

全身を使ったもの，教科の学習で学んだもの，自主学習で学んだものをまとめ整理することで，他の児童のできたものにチャレンジしたいと思う意欲を高めたり，努力している友達を手伝いたいと思う気持ちとその気持ちに答えてチャレンジしたりすることを大切にしたい。

また，学習についても失敗体験が多くなりがちなために，自信をもって発表したり，活動したりすることを苦手としている。新しいものへの挑戦は，躊躇してしまうことが多く友だちや教師と一緒に活動したり，声掛けをしてもらったりすることで安心して取り組むことができる。そこで，本学級の友達が挑戦する活動を見たり聴いたりする中で自分もやったり，自信をもってできたりするものを活動の中に入れるようにした。そして活動しながらお互いの気持ちや声の掛け方のスキルの向上につなげたい。

○　系統について

昨年度，今年度と体を動かす活動を他の特別支援学級と合同学習で取り入れてきた。体を動かすことが余り得意ではない児童が多い中，できる児童のまねをしたり，話し合いで工夫をしたりして自分のレベルを高めてきた。合同学習では，４～５人のグループを組んで競争してきた。グループになることで友達との関わりやルールを守ることの大切さを実感することができたが，競争で負けたりすると気持ちのコントロールがうまくできなくなったり，ルールを守らなくてもという気持ちが出てきたりする。また，大きな集団では，自分で気持ちを伝えなくても活動できてしまう場面が多いため，簡単な言葉だけになってしまう。そこで，個人で活動するときも，自分の言葉で相手に明確に気持ちを伝えたり，順番を待つなどの決まりを守ったりする大切さを知る場面にしたいと考えた。

（2）児童の実態（５人）

本学級の児童は，５人である。明るく何にでも興味をもつが，言葉や態度でうまく自分を表現することができないことがある。知的レベルは高いが，学力に結びつかず自分の能力を生かせないときがある。また，体を動かす活動も微細運動は苦手な児童も少なくない。

		題材に関する児童の実態	目標
６年	A	・活動を人の前で発表することは，得意ではないが，少人数の中では楽しくできる。 ・支援学級では自分の考えを話すことはできるが，集団の中では自分のことをうまく表現できない。	・今までに学習したことを，友達の前で発表することができる。 ・６年生として下学年を支援しながら，相手に自分の考えを伝えることができる。
５年	B	・得意なジャンルをたくさんもっているが，活動の見通しやイメージをもつことが課題である。 ・友達の気持ちを察するのに時間やアドバイスが必要なときがある。	・掲示等を頼りに活動に見通しをもち，学習したことを発表することができる。 ・活動を通して自分と友達のよいところを相手に伝えることができる。
５年	C	・活動に対しての興味・関心は高く，活動もスムーズであるが，持続力に課題がある。 ・自分をうまく表現したり話したりすることができずに誤解をうけてしまうことがある。	・今までに学習したことを発表する活動を通して，自分に自信をもつことができる。 ・自分のできたことや友達のよさを，相手に恥ずかしがらずに伝えることができる。

２年	D	・自分の好きなことに夢中になり，活動に見通しがもてず遅れてしまうことがある。 ・話をすることは好きだが，集団の中ではうまく自分の考えを表現できないことがある。	・視覚的な掲示物を手がかりに，活動の見通しをもつことができる。 ・自分の気持ちをコントロールして活動し，場に応じた友達のよさを伝えることができる。
１年	E	・体を動かすことは好きだが，指示にあった動きは苦手で，集中する時間が短いときがある。 ・発音が不明瞭で相手にうまく意思が伝えられず，思い通りにならないとパニックになる。	・活動に見通しをもち，支援を受けながら今まで活動したことを発表できる。 ・順番やルールを守りながら活動することで友だちと関わることができる。

（３）指導観

児童の実態から，本題材では①決まりを守ること②仲良く活動すること③相手に自分の気持ちを伝えることの３つを授業のめあてとし，チャレンジすごろくを作る計画から児童が今までの学習を振り返り，自分のできたことを確認したり，友達のできるようになったことにチャレンジしたりする活動を取り入れたい。

体を動かしたり，学習で学んだりしたことを織り交ぜながら，１年生から６年生が無理なくできる内容を児童の発想を生かしながら考え「チャレンジすごろく」作りを行う。その活動の中で，自分のよさに気付く自信をもったり，友達のよさを知ったりしたことを相手に伝えることで話す力を高めたいと考えている。

また，活動に参加しにくい児童や集中する時間が短い児童も参加しやすくするために，めあてや手順など視覚的にも分かりやすいように明確に掲示する。高学年が下学年の友達に声掛けやアドバイスをしながら，楽しめるよう個人のめあてを意識させながら取り組ませたい。

○「集中して聞き，考えを深め，伝える力」の育成のための手立て

話を聞くことが苦手な児童は，他の児童の様子や教師や友達の声掛けによって話を聞くことができるようにする。話を集中して聞けるように，視覚的な理解の手立てを用意する。自分の考えや気持ちをまとめるためにがんばりカードを用意し，自分の意見を発表するための手立てとする。授業の中で発表する場をそれぞれ作り，実践する場を設ける。

３　学習の計画（10 時間扱い）

第一次　　学習計画「自分ができるようになったこと」・・・・・・・・・・２時間
第二次　　「チャレンジすごろく」作り・・・・・・・・・・・・・・・・・２時間
第三次　　「みんなでチャレンジ」をしよう・・・・・・・・・・・・・・・３時間（本時は第１時）
第四次　　チャレンジすごろく大会をしよう・・・・・・・・・・・・・・・１時間
第五次　　発展　他の学級でもやってみよう・・・・・・・・・・・・・・・２時間

４　本時の学習

（１）個別目標

	個　人　目　標
A	・苦手なことにも挑戦する態度でのぞみ，下学年の友達に配慮して活動することができる。
B	・自分のよさや友だちのよさを，自分の言葉や体で伝えることができる。
C	・相手に自分の気持ちを言葉で伝え，めあてを意識しながら仲良く活動できる。
D	・活動の手順やめあてが分かり，楽しく活動することができる。
E	・教員や支援員の支援を受けながら，最後まで活動することができる。

（２）準備・資料

課題を書いた黒板，がんばりカード，シール，空き缶，トランポリン，ボール，バランス棒，プリント縄跳び，バケツ，雑巾，漢字パズル，なわとび，すごろく，さいころ

（3）展開

学習活動・内容	教師の支援 （○は「集中して聞き，考えを深め，伝えるための支援」　◎は評価）
1　はじめのあいさつをする。 ①　あいさつ ②　月日，曜日，天気 ③　きのうのできごとなど	・Aに号令をかけさせることで，下学年の児童に授業の始まりを知らせ，最高学年として意欲的に授業に参加させたい。また，「起立」「礼」の動作をさせることで授業の開始を意識させる。 ・B，Eが指名される前に答えてしまうときには，きまりについて確認する。
2　本時の課題と順序を知る。 みんなでチャレンジをしよう。 めあて ①　なかよく ②　きまりを守って ③　最後まで　（お助けマン）	・C，Dに課題を読ませることにより，学習に対する意欲をもたせる。 ・めあてをB，D，Eに読ませることで，本時の学習で大切なことを確認する。 ○できないときや不安なときは「お助けマン」に自分が助けてもらいたいことをことばで伝えるとよいことを確認する。
（1）チャレンジすごろくをする。 ①　さいころを振る。 ②　自分のこまを進める。 ③　こまの進んだところのチャレンジをする。 ④　友達のチャレンジを見る。 ⑤　友達ができたときは，称賛する。 ⑥　自分の順番まで待つ。	・Eがすぐにすごろくに取り組めないときには，AやCの活動の様子を見せたり，声かけをしたりして，スムーズに活動ができるようにする。 ・BやDが途中で，活動をあきらめてしまおうとした時は，めあてをもう一度読ませ，できるところまで活動するように助言する。 ○友達のよいところや自分のよいところに気付いたときには自分のことばで伝えるように支援する。言葉で表現できないときは，拍手をするように声かけをする ・Aには，自分の活動だけでなく下学年の友達に配慮ができるように助言する。 ・活動が詰まりやすいDには，教師や支援員が支援しながら最後まで活動させたい。 ・自分の課題に取り組むのに時間のかかるDやEには，教師や支援員が支援をする。
（2）　自分の課題に取り組むことができる。 ・各自の課題（漢字パズル）	・自分に合った漢字パズルを早く完成させてしまった児童には，読み仮名を書くように助言する。 ○BやC，Dには，落ちや抜けがなく活動を振り返ることができるよう支援する。 ○AやEにがんばったことや感想を発表させ，次時への意欲につなげたい。また，自分の気持ちを伝える大切さに気付かせたい。
3　本時の反省をする。 ・自分でがんばったこと ・人のよいところ 4　後片付けをする。 5　次時の課題を知る。	◎なかよく，ルールを守って，最後まで活動することができたか。（観察，カード） ・教室や机の周りを見回し，後片付けができているか確かめさせたい。 ・チャレンジすごろく大会のことを知らせ，次時の意欲につなげたい。